

わが町の台所事情②



今月は、わが町の台所事情を分かりやすくするため、町予算を年間家計費四百万円の家計簿に置き換えてみました。

町の予算を年間の家計費が四百万円の農家に置き換えてみると次のようになります。

両親の援助がないと・・・

家計を支えるべき農業収入（地方税等）が収入全体の約一割と非常に少なく、両親の援助（国・県からの地方交付税や補助金等）がないと生計を維持できない状況です。

ところが両親（国・県）の財政状況も厳しくなっており、年々その援助額も減ってきています。

苦しい家計

残り少ない預金
収入不足を補うため、やむを得ず貯金から引き出す金額（基金の取り崩し額）も年々多額になっており、引き出せる貯金（基金）の残高も残り少なくなっています。

収入



両親

②両親からの援助
280万円
(月平均23万3千円)

「両親の援助がないと家計は成り立ちません。」

①農業収入
44万6千円
(月平均3万7千円)

「家計を支えるべき大切な収入ですが、収入全体の1割程度しかなく、他の収入に頼らざるを得ない状況です。」



農家

③農機具購入ローン借り入れ
36万6千円

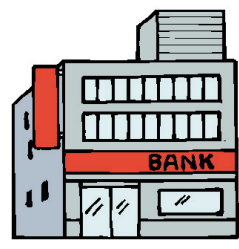


B銀行

④貯金の引き出し
38万8千円
(月平均3万2千円)

「収入不足を補うために貯金を引き出していますが、残高も年々少なくなってきました。」

A銀行



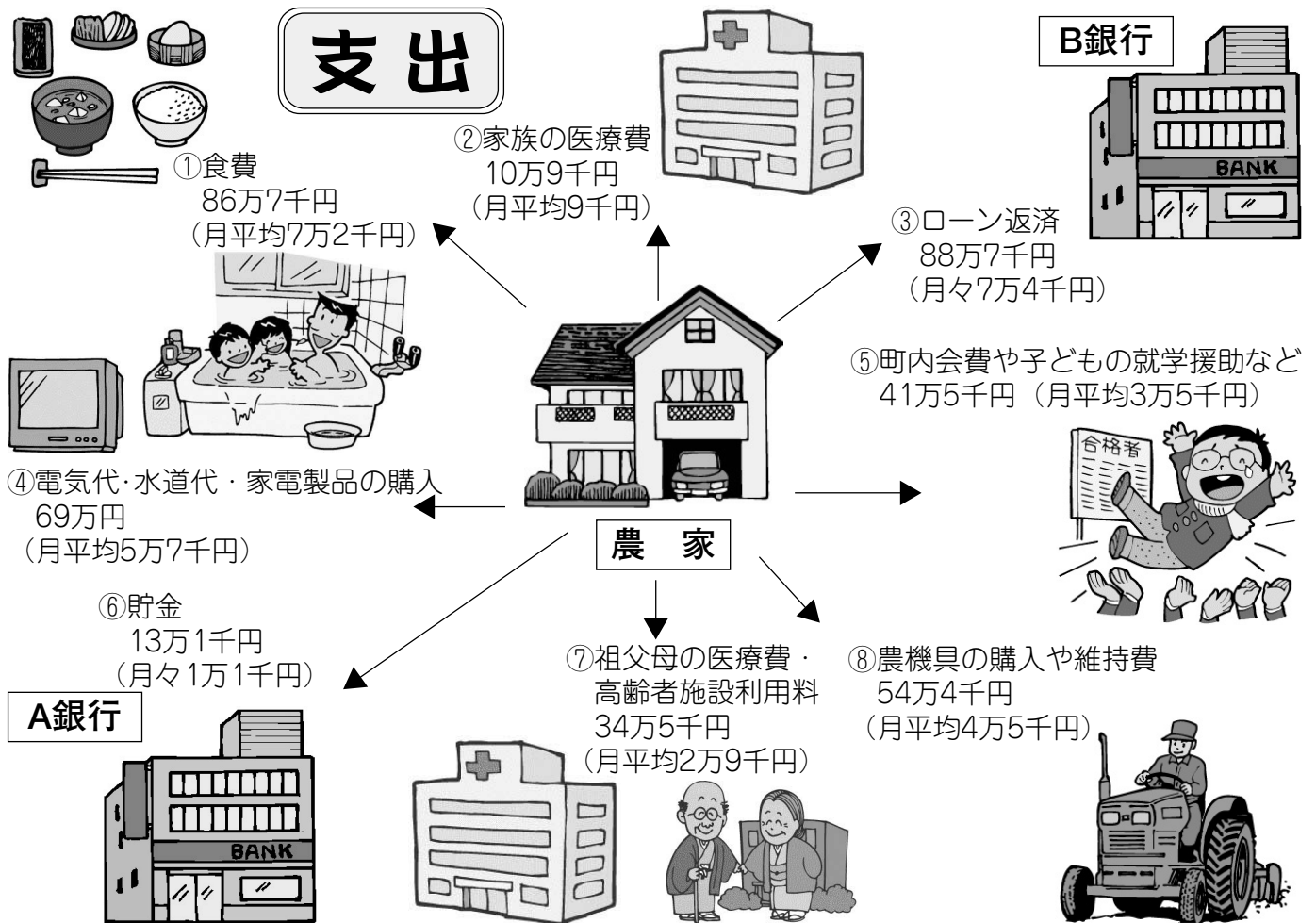
平成18年度一般会計予算（単位：千円）		年400万円の家計に置き換えた場合（単位：千円）	
地方税等の自主財源	706,453	①農業収入	446
地方交付税・各交付金	3,447,950	②両親からの援助	2,800
国県支出金	991,027	③ローン借り入れ	366
地方債	580,000	④貯金の引き出し	388
繰入金	614,670	1年の収入合計	4,000
歳入合計	6,340,100		

(バイオマスエネルギー実験事業684,938千円除く。)

このままでは破綻
収入不足が深刻化する一方で、祖父母の高齢化に伴い医療費や高齢者施設利用料などの負担が増えており、このままでは家計を維持できなくなります。

家族で家計の見直しを
このように家計が苦しさを増すなかで家族（行政改革推進委員会）で話し合い、支出を切り詰め、無駄をできる限りなくそうと決めました（行政改革大綱の策定）。

食費（人件費）や電気代・水道代など（物件費）の節約はもちろん、子どもの就学援助（各種補助金等）なども見直すこととしています。



平成18年度一般会計予算 (単位：千円)		年400万円の家計に置き換えた場合 (単位：千円)	
人件費	1,373,875	①食費	867
扶助費	173,411	②家族の医療費	109
公債費	1,405,145	③ローンの返済	887
物件費	1,093,677	④電気代・水道代・家電製品の購入	690
補助費等	657,204	⑤町内会費や子どもの就学援助など	415
積立金	207,028	⑥貯金	131
繰出金	546,575	⑦祖父母の医療費・高齢者施設利用料	345
投資的経費・維持補修費	863,015	⑧農機具の購入や維持費	544
その他	20,170	その他雑費	12
歳出合計	6,340,100	1年の支出合計	4,000

(バイオマスエネルギー実験事業684,938千円除く。)